

平成 27 年 6 月 25 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 12 回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成 27 年 3 月 3 日(金) 13:30~17:00
開催場所	独立行政法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	20 名:上叢主査、浅見幹事、今野幹事、安納委員、植木委員、大石委員、奥野委員、奥村委員、黒澤委員、郡司委員、佐藤委員、助川委員、杉田委員、谷内委員、坪井委員、中田委員、中根委員、中村委員、平尾委員、平山委員
議 事	<p>1. 遮蔽ハンドブック基礎編の進行状況について</p> <p>ハンドブック基礎編は原稿が揃い、見本版が完成して回覧された。3/16 に 120 部の印刷が完了予定で、原子力学会春の年会では学会出版物の閲覧ブースに見本を置いてもらう。事前注文(送料無料)は 17 冊あった。今後、放射線工学部会のホームページ上で、中身(表紙、目次、前書き程度を PDF にしたもの)を見ることができるようにする。また、アイソトープニュース、Film Badge ニュース等に書評を掲載するとともに、原子力学会、放射線工学部会、保険物理学会等のメーリングリストでハンドブック基礎編が出版されたことを周知し、販売促進を図る。</p> <p>2. 遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について</p> <p>記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、目次を改定。出席委員の執筆希望箇所をだしてもらった。次回委員会で担当を決め、議論を進める予定。欠席委員には、後日、執筆希望箇所を確認することにした。章のとりまとめ担当者は次回委員会で決める予定。最後に、章毎に分かれて議論を行った。</p> <p>3. その他連絡事項</p> <p>次回会合は 6 月を予定。</p>
備 考	

平成27年6月5日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第11回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成26年12月15日（金） 13:30～16:00
開催場所	独立行政法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	19名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、根本幹事、安納委員、岩下委員、大西委員、奥村委員、郡司委員、坂本委員、助川委員、中田委員、中根委員、中村委員、根本委員、波戸委員、伴委員、平山委員、山野委員
議 事	<ol style="list-style-type: none">講演「海域における放射性物質の分布状況の把握等に関する調査研究」 大西委員より、海技研で実施している「海域における放射性物質の分布状況の把握等に関する調査研究」に関する講演を頂いた。海中ロボット及び海中ロボットを用いた海底の放射性物質分布測定の概要、福島第一原子力発電所周辺（含む、仙台湾、阿武隈川河口周辺、新田川河口周辺）の海域での測定結果の速報が報告された。主な核種はCs-137で、局所的に放射性物質が多い箇所（アノーマリー）があること、放射性物質分布と海底の構造に相関が見られること等、大変興味深いものであった。遮蔽ハンドブック（基礎編）原稿案の確認及び各章の作成状況について 上叢主査から遮蔽ハンドブック（基礎編）の出版の説明があった。CD付き（PDFファイルはカラー）で120部モノクロ印刷して出版する予定。表紙の色は少し薄くする。上叢主査から遮蔽ハンドブック（基礎編）の原稿状況の報告があった。はしがき、1章、3章、5章、6章、7章、9章は完成（し、2章と10章は最終確認を行っている。4章はまだ原稿が集まりきっておらず、本委員会後、関係者で打ち合わせをして対応を決めることにした。年末には全ての原稿をPDFにして各委員に見てもらえるようにする。遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について 記載内容を議論。種々のコメントがあり、それらを踏まえて、次回委員会で担当を決め、議論を進める予定。その他連絡事項 次回会合は3月を予定し、講演なしで作業中心に戻すことにした。
備 考	

平成27年6月5日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第10回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成26年9月19日（金） 13:30～16:00
開催場所	独立行政法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	21名：上叢主査、浅見幹事、今野幹事、坂本幹事、根本幹事、安納委員、糸賀委員、岩下委員、奥野委員、奥村委員、坂本委員、佐藤委員、杉田委員、谷内委員、中田委員、中根委員、中村委員、伴委員、平尾委員、平山委員、山野委員
議事	<ol style="list-style-type: none">1. 講演「小型化中性子源の開発」 理研・光量子技術基盤開発グループ中性子ビーム技術開発チーム・大竹淑恵チームリーダーより、産業利用を目的として理化学研究所で実施している「小型化中性子源の開発」に関する講演を頂いた。陽子線ライナックを採用し、据置型及び可搬型の中性子源と検出器の開発がなされ、橋梁の非破壊検査、健全性診断への適用が期待される。現在、可搬型のものについては、トラックの荷台に積載できる大きさまで開発できる見通しが得られている。2. 遮蔽ハンドブック（基礎編）原稿案の確認及び各章の作成状況について 各章の遮蔽ハンドブック作成状況について各章担当より報告があった。3. 遮蔽ハンドブック応用編に記載する内容について 記載内容を議論。種々のコメントがあり、今後、主査、幹事で内容を再度整理し、次回担当割り当てを議論する。4. その他連絡事項 次回会合は12月を予定し、講演は海洋放射能分布（海技研）を候補とした。
備考	

平成27年6月5日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第9回「遮蔽ハンドブック」研究専門委員会
開催日時	平成26年7月17日（木） 13:30～16:15
開催場所	独立行政法人理化学研究所 東京連絡事務所
参加人数	22名：上菘主査、浅見幹事、今野幹事、坂本幹事、安納委員、糸賀委員、岩下委員、植木委員、大石委員、奥野委員、奥村委員、黒澤委員、郡司委員、坂本委員、佐藤委員、助川委員、杉田委員、谷内委員、中野委員、中村委員、平山委員、森島委員
議 事	<p>1. ハンドブック基礎編出版形式について</p> <p>上菘主査より、放射線遮蔽ハンドブック基礎編の出版形式として、120部程度製本し、原稿のPDFファイルをCDに入れて添付する案が提案され、了承された。また、表紙の案も提案され、旧版と並べて本棚に置かれる可能性が高いので、表紙の色は旧版と同じにすることになった。</p> <p>2. 遮蔽ハンドブック基礎編目次について</p> <p>上菘主査より、ハンドブック基礎編の目次の説明があった。章によって長短はあるが、全体で360ページくらいに収まる見込み。ページは章毎にするのではなく、通しページにすることになった。</p> <p>3. 遮蔽ハンドブック基礎編内容について</p> <p>上菘主査より、ハンドブック基礎編の内容の説明があった。8/18までに、各委員で分担して、原稿のチェックを行うことにした。また、8月末までに図に転載許可が必要かどうかエクセルにまとめ、必要な転載許諾書と一緒に幹事に送付する。</p> <p>4. 遮蔽ハンドブック応用編内容について</p> <p>上菘主査より、ハンドブック応用編の内容案について説明、及び、平成27年度末までには出版にこぎつけた旨の補足があった。種々のコメントがあり、次回までに内容を再検討し、次回会合で大まかな執筆分担を決めることになった。また、来年度末までの出版は時間的に厳しいので、それにとらわれなくてもいいのではというコメントもあり、無理なスケジュールにはしないことにした。</p> <p>3. その他連絡事項</p> <p>次回は9月から10月を予定。次回から講演も復活させ、「理研の小型中性子源」の講演を行うことで調整する。</p>
備 考	